



## ふひょう いちどう 浮萍 一道 開く

● NPO法人ホップ  
障害者地域生活支援センター

代表理事 竹田 保

皆様、新年あけましておめでとうございます。前回のエッセーでは、山形への旅の経験について触れ、旅を通じた非日常の楽しみについて伝えさせていただいた。しかしながら、新年を迎える中で、様々な出来事が私自身の心にも深い考えをもたらした。自らも業務のため頻繁に新千歳羽田便を利用することがあり、航空機事故に遭遇した場合の避難の難しさを痛感し、生きるための最善の選択について考えさせられた。

今年は、数年ぶりにコロナ禍の行動制限も緩和され、久しぶりに、アクティブに旅を楽しむことを考えていた。しかし、元旦には、能登半島地方で大きな地震が発生し、津波による災害も発生した。テレビの画面には火災の発生、家屋倒壊、土砂崩れなど東日本大震災を彷彿させる映像が次々に映し出され不安を感じずにはいられなかった。被災された皆様にはお見舞い申し上げます。また、これ以上、被害が更に拡大しないこと、高齢者や障がい者などの災害弱者の声が届くことを願っている。

冬期間の災害は寒冷地域ならではの対策が求められると思う。東日本大震災でも、被災後に寒さによる低体温症が障がい者や高齢者の被害をさらに拡大させたとの報告もあった。今回の能登半島震災被害者の寒さ対策や停電時の防災対策についても心配される。特に障がい者は自らで緊急避難することが難しく、声を出せずに我慢しているのではないかとと思う。必要な支援が速やかに届くことを祈るばかりだ。

そんな中、テレビを見ていたら、2日には、羽田空港でJAL旅客機と海上保安庁の輸送機が衝突炎上するという報道が飛び込んできた。海上保安庁の輸送機は能登半島地震への支援のため出発しようとしていて千歳発羽田便が滑走路へ着いた瞬間に衝突炎上したらしい。旅客機

の衝突炎上事故というショッキングな情報に、自分も上京の折には、羽田便を利用したことを思い出し、胸が痛む思いでいっぱいになった。幸いにも車いす2名を含む乗客乗員の全員が脱出することができたと聞き、日頃の安全教育訓練の成果をしらされた。新年早々、暗いニュースが続く中で、一日も早い復興と被災地の皆様の安全を心からお祈りしています。

新千歳羽田便を利用した際、その利便性や快適な空の旅を享受していたことを思い出される。しかし、同時に、もしもの瞬間にどれだけ無力であるか、自分たち障がい者が生きるための最善の選択を果たしてできるのか。という現実が鮮明になり、不安と戸惑いを感じずにはいられない。災害時には、通常の状態とは異なり、制約や困難が倍加することになると思う。自己緊急避難が難しく、周囲からの支援が不可欠となる。

障がい者が安心して生活できる社会を築くためには、地域社会全体が災害弱者の存在を意識し、協力し合い、無理のない避難場所や手段を整備していくことが必要だと思う。また、一般の方々とも共に協力し、互いに理解し合いながら、災害時における連帯の精神を育むことが求められる。

災害に備えるだけでなく、それぞれができる範囲での支援や情報発信も大切だと思う。障がい者自身も、地域の方々も、お互いが助け合い、共に困難を乗り越えていけるような結束が求められるのではないかとと思う。誰もが生きるための最善の選択ができるよう、日頃からの備えが欠かせないのではないかとと思う。

コロナ禍、ウクライナの戦争、イスラエルとガザ地区ハマスの紛争。そして、年を開けて、能登半島地震、航空機事故と障がい者に不利益や負担を強いられていないかと思う。この厳しい時期においても、未知の未来に対して希望を胸に刻み込み、前向きに歩いていきたいと思う。新年を迎え、新たな一步を踏み出す中で、私たちの力を合わせて、困難を乗り越え、未来への一步を踏み出していきたいと思う。今年もよろしくお祈りいたします。